



- ・事務所ニュース
- ・10月の行事
- ・From Project・North／土肥優子職員
- ・From Project・South／島津英樹専門家
- ・着任挨拶
- ・My Favorite／小野里宏代専門家



事務所ニュース

北部スーダンでの灌漑施設改修(無償資金協力)に向けた予備調査終了！



長年に亘り停滞しているスーダンの農業セクターの再活性化のためにスーダン政府が重要視する灌漑施設の改修は、日本政府がTICADIVにおいて表明した公約である「2012年までの灌漑施設10万ヘクタールの改修・整備支援」の着実な達成にも貢献する案件として、8月2日～9月23日の日程で「スーダン北部食料生産基盤整備計画」予備調査が実施されました。調査ではリバーナイル州、ノーザン州及びカッサラ州の3州を対象に灌漑計画、灌漑施設・機材、営農、環境社会配慮の各専門的見地から事業実施の可能性を検討するとともに、スーダン農業省の優先順位も含めて関係者間で協議を行いました。今回の調査地区の一つであるリバーナイル州におけるナイル川本流沿いのポンプ灌漑スキームでは、地理的にはナイル川の豊富な水が取水できる場所にありながらも、灌漑ポンプの機能低下により作物栽培のための水利用が制限されているのが現状です。このような地区において、現在はディーゼルポンプが主流である灌漑ポンプを電化することにより、灌漑機能を回復すると同時に灌漑コストを削減し、作物栽培を通じた農家の収入を向上させることが期待されています。今後さらに協力内容の検討を進めていき、来年初め頃から再度現地調査を行うことが予定されています。

詳細はJICA事務所担当、山田まで。

西日本新聞社 取材チーム来訪！



9月18～23日にかけて、九州・福岡に拠点を置く西日本新聞社の取材チームがスーダンにおけるJICA事業取材のため来訪しました。今回取材対象となったのは、セナール州でのフロントライン母子保健強化事業、JICA草の根技術協力であるNGOロシナンテスの母子保健改善プロジェクト(ガダーレフ州)、ゲラ州での「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクトです。各地域において、プロジェクトの日本人専門家の方々にお話を聞くだけでなく、事業の受益者であるヘルスビジターや村落助産師、農業普及員、農家の方々にインタビューするなど、精力的な取材が行われました。今回の取材の様子は、近々同紙において数回の連載形式で記事が掲載される予定となっています。

詳細はJICA事務所担当、須山まで。

レファレンダムに向けた動き！



南部スーダンの独立及びアビエイの帰属を問う住民投票を来年1月に控え、国連や各国政府、援助機関の動きが活発になっています。去る9月24日の国連スーダン・ハイレベル会合では、オバマ米大統領が「予定通りかつ公正な住民投票の実施」を呼びかけました。住民投票の結果が「独立」の場合には、来年7月の独立も予想されます。しかしながら、南部独立に際し、国境線、国籍、債務の継承、石油収入分配、通貨創設などの課題があるほか、政府自体の能力(治安維持機能、行政機能など)の強化も必要とされています。このような中、9月17日にEU主催の「南部スーダン政府能力強化に関するハイレベル技術会合」がブラッセルで行なわれ、JICA事務所から尖戸と中村が出席しました。

GOSSがまとめたアクションプランでは、①幹部のリーダーシップ強化、②治安強化、③法支配の確立、④財政管理の強化、⑤行政能力の強化、⑥天然資源の管理強化の6つの優先分野が提示され、参加者から支持を得ました。JICAは、「GOSSの優先順位に沿った技術協力を行なう用意があり、11月に専門家を含む調査団を派遣する」旨を表明しました。今後、10月には世界銀行が主催する支援会合が開かれるなど、CPA以降の援助の枠組みなどに関する議論も今後活発化する模様です。

詳細はJICA事務所担当、中村まで。

- 10月8日(金) 「フロントライン母子保健強化プロジェクト」終了時評価及びフェーズ2事前評価・調査団来訪(～30日)
- 10月10日(日) 「根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発」プロジェクト スーダン科学技術大学内プロジェクト実験室開始式
- 10月11日(月) 南部スーダン内水輸送運営管理能力向上プロジェクト詳細計画策定調査(～25日)
- 10月12日(火) 「ダルフル及び3PA人材育成プロジェクト」JCC開催(～13日)
- 10月13日(水) 「水供給人材育成プロジェクト」終了時評価(～11月3日)
- 10月18日(月) 「ダルフル及び3PA人材育成プロジェクト」給水分野パイロット事業開始式@エルファシャ
- 10月19日(火) ジュバ市持続的な道路維持管理能力強化プロジェクト、南部スーダン・ナイル架橋建設計画、F/S(～11月4日)
- 10月20日(水) 「ダルフル及び3PA人材育成プロジェクト」職業訓練パイロット事業開始式@カドグリ



プロジェクト関係者の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー。

今回は、2010年度末のDDR支援事業開始に向け奮闘中のJICA公共政策部、土肥さんです。

元戦闘員の社会復帰を促進するための支援

公共政策部 平和構築・貧困削減課

土肥 優子

紛争終結国では、紛争中に肥大化した軍や増大した武装勢力への対応をどうするかが一つの課題となります。スーダンでは、20年以上に亘って南北間で内戦が続いていましたが、2005年ようやく政府と南部の旧反政府勢力の間で和平合意が締結され紛争に終止符が打たれました。和平合意は「移行期間」（2005年～2011年）を設けつつ、「1国2制度」を軸としたスーダンの新しい国づくりを目指したものです。その合意事項の一つとして、南北両軍の武装解除・動員解除・社会復帰（以下DDR）を実現することが謳われています。DDRとは、戦闘員の武装解除を行うとともに、部隊を解体して指揮命令系統から解放し、市民社会へ復帰させるという一連のプロセスです。

南北における武装解除・動員解除は2009年前半にスタートしました。当初の計画によると南北で18万人をターゲットとするチャレンジングな構想です。スーダンは南北の紛争以外に、東部・ダルフル地域においても紛争が勃発しており、これらの地域でもDDRを実施・計画中です。このプロセス全体の計画・調整役を担うのが武装解除・動員解除・社会復帰委員会（Disarmament, Demobilization, and Reintegration Commission）です。この委員会から能力強化支援の要請がありました。「JICAの協力を得て、是非社会復帰支援の質を高めたい」というものでした。

紛争影響国では共通して、しばしば行政サービスの機能が低下しているだけでなく、元戦闘員の社会復帰の受け皿となる経済・社会状況が疲弊しています。特にスーダンの場合、南北間の紛争が長年続いていたことに加えて、紛争終結後間もないタイミングでDDRが実施されていることから、他の紛争影響国と比べても、社会復帰はよりチャレンジングな環境下での実施であると言わざるを得ません。また政治的にも、2011年以降の将来の国のステータスが定まっていない状況下でもあります。しかしながら、現行のDDR（特に南北のDDR）は、前述のとおり南北間の和平プロセスのマイルストーンの一つであり、この和平合意の履行は、スーダン全体の平和定着の鍵を握っています。

こうした中、JICAとして貢献できる部分は社会復帰支援です。具体的には、社会復帰事業を地域の復興開発プロセスと繋げていくために、委員会に必要とされている計画や調整能力を、元戦闘員が帰還する「地域の開発」の視点をもって強化していくことです。一つの具体例として、地域で提供されている技術訓練や生計向上支援等の行政サービスに、元戦闘員も裨益できるように、委員会が担うべき機能を強化していくことです。なお、元戦闘員としての特性を視野に入れることも忘れてはなりません。元戦闘員の中でも、敵対していた旧政府軍・旧政府軍寄り勢力、旧反政府勢力関係者のいずれかに偏った支援を実施すると、このような政治的環境であるがゆえに、負の影響を及ぼします。

元戦闘員の中には、身体的・精神的障害を持つ人やコミュニティに快く受け入れられない人等がいることにも留意が必要です。

こうした考えのもと、2010年末頃から委員会に専門家を派遣し、協力を開始する予定です。この新たな協力を先行し、JICAでは別案件を通じて、DDR実施地域における行政サービス提供機関の能力強化支援を行っています。元戦闘員のニーズも取り込むことにより、直接的ではないものの社会復帰事業の実施機関の能力強化にも貢献していくことが期待されています。



2009年12月、南部ジュバの職業訓練校卒業式。訓練生として市民と除隊兵士が共に臨んだ。



土肥 優子

どひ ゆうこ/JICA公共政策部 平和構築・貧困削減課。

ケニア地域支援事務所、インドネシア事務所を経て、2007年8月～2008年8月までスーダン勤務。現在は本部公共政策部にてスーダンのDDR支援に携わる。



プロジェクト関係者の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー。

南部第一回目は、南部スーダン理数科教育強化プロジェクトの島津専門家です。

南部スーダン理数科教育強化プロジェクト

南部スーダン理数科教育強化プロジェクト
現職教員研修マネジメント 島津英樹

2005年に南北の内戦が終結し徐々に復興が進む南部スーダンですが、教育の質向上は大きな課題の一つです。南部スーダン教育省が2009年にまとめた資料によると、訓練を受けた小学校教員の割合は13%です。特に理数科と英語教育の厳しい現状が指摘されています。この状況下、南部スーダン教育省は2009年11月に小学校教員を対象とした理数科教育強化プロジェクトを立ち上げました。3年間のプロジェクト期間中により多くの教員に研修の機会を届けるために活動を続けています。



プロジェクトのアプローチは「授業改善運動」という言葉で表されます。南部スーダンでよく見られる、教師が一方的に説明を行う講義型授業から、生徒の参加を促す授業に導くことをプロジェクトでは目指しています。実際の教員研修のなかではグループ活動を中心に、例えば参加者全員で授業の指導案を準備し、模擬授業を行い、他の参加者はその授業を観察し、その後討論しようという実践的な形式をとっています。つまり教員研修を通して理数科の教科内容だけでなく、授業内容を改善させていくことを目的としています。

これまでの研修参加者からは「自身の授業の問題点がよく把握できた」、「理数科の指導に自信がついた」といった声が聞かれました。研修を終えた教員がそれぞれの学校に戻り、学んだ内容を他の教員にも伝えてくれることを期待しています。一方でこれまで理数科関係の教員研修が少なかったことから、「教科内容が難しかった」、「もっと実験を取り入れて欲しい」といった意見もありました。南部スーダンの現状に即した研修教材の作成はプロジェクトにとっても今後の課題です。

また、教育省の教員研修実施体制が強化されることもプロジェクトの目的の一つです。本プロジェクトでは研修にかかる全ての準備を行うのではなく、各州教育省の継続的自立を重視し研修準備の段階から関係者との協議を重ね、一緒に教員研修の場を作り上げています。可能な限りスーダン側のイニシアティブを高め、将来的には彼らが自力で研修を実施していることを目的としています。決して一夜で出来ることではありませんが、プロジェクトチームで一丸となって一つ一つの課題をこなしながら進めていきたいと思えます。今後も南部スーダン政府教育省と協力しながら活動を進め、2010年中に500名超の教員に研修の機会を届けて行きたいと思えます。



教員研修の様子1



教員研修の様子2



島津 英樹

しまづ ひでき / 南部スーダン理数科教育強化プロジェクト・現職教員研修マネジメント。

2010年5月より本プロジェクトに従事。ガーナ、ナイジェリアに続きスーダンはアフリカでの3カ国目の赴任地。5年ぶりのアフリカ生活を楽しまつ、業務にあたっている。

着任 挨拶



井堂 有子 専門家〈ダルフルール人材育成プロジェクト／チーフアドバイザー〉

9/26にシリアから直接着任してしまいました井堂と申します。シリアでは経済担当の企画調査員をしていました。こちらでは、「ダルフルール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト」のプロジェクト管理を担当させていただきます。不束者ですが、どうぞ宜しくお願い致します。



大江 景 在外専門調整員〈JICAスーダン駐在員事務所〉

南部スーダン・フィールド事務所にて総務や生計向上・農業関連の案件形成等をさせていただきます。内戦の影響により課題は山積みですが、特に食糧安全保障や農業技術普及といった分野に貢献できればと思っており、農業分野ではどういった構造や普及体制を構築し技術を広めていくのかが私の大きな関心事項です。ポテンシャルが大きく、劇的な変遷期を迎えるこの国で働けることを光栄に思います。



木村 亮一 隊員〈青年海外協力隊・自動車整備〉

この度、自動車整備の短期隊員として赴任しました木村です。こちらの前は、同職種にてイエメンで約2年間活動しておりました。日本では何かと危ないイメージのイスラム圏ですが、実際のところ客人をもてなす精神があったり、宗教的・道徳の考え方から割と治安も良く感じられます。スーダンを経験された方々からも「スーダンは人が良い」と伺っているので、これからの生活が楽しみです。任期10ヶ月という短い間ですが、よろしくお願ひいたします。

10月の離任着任予定

- | | | | |
|-----------|-----------------|--|----|
| 10月1日(金) | 佐野太吾 専門家 | <フロントライン母子保健強化プロジェクト・コミュニティ強化担当> | 離任 |
| 10月11日(月) | 長田彩子 在外専門調整員 | <JICAスーダン駐在員事務所> | 着任 |
| 10月12日(火) | 村川太志郎 JICA事務所所員 | <JICAスーダン駐在員事務所> | 着任 |
| 10月15日(金) | 中元則晶 専門家 | <ダルフルール及び3PA人材育成プロジェクト・計画策定・実施・モニタリング指導> | 離任 |
| 10月24日(日) | 松岡秀明 JICA事務所所員 | <JICAスーダン駐在員事務所> | 離任 |
| 10月31日(日) | 須山恭世 在外専門調整員 | <JICAスーダン駐在員事務所> | 離任 |

My Favorite

シーシャ (水タバコ)

小野里 宏代 専門家

<「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト>

ハルツームでは人々がシーシャ (水タバコ) で余暇を楽しむ姿をみかけます。市内のレストランや喫茶店でシーシャを提供しており、夕食後の時間をシーシャとジュース (禁酒の為) とともに、友人たちと会話を楽しみます。

娯楽の少ないハルツームでの息抜きに、私もゆったりとした時間をシーシャで楽しみながら過ごす事があります。水タバコという事で、

身体に悪いのではと最初は躊躇しましたが、シーシャには様々なフレーバーがあり、その香りを楽しめ、とてもリラックスできるので気に入っています。ぶどう、りんご、ミントや色々な味を混ぜたミックスなど、様々なフレーバーの中からその時々のお気で選ぶ事ができます。私のお気に入りには、屋外にテーブルが設置されているスターカフェ (アマラト地区) の「スターカフェ・スペシャルミックス」、ミントの香りが入った甘く爽やかなフレーバーです。何度か炭を取り替えてもらい、2時間ほど楽しむ事ができます。



編集後記

ラマダン明け、北部スーダンにはようやく通常のリズムが戻ってきました。また、今号からこのニュースレターは南部との合同となり、よりパワーアップした内容になりました。

次号は11月です。

JICA Sudan News Letter/vol.4
JICA Sudan Office
House#14, Block #10, St.49
Amarat, Khartoum, Sudan

発行: 広報担当

(注: 9月末現在、シーシャが規制されており上記のレストランでは提供されておりません)